

資料・統計

2020年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2020

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

1. 消化器外科

				非上皮性腫瘍	
				GIST	開腹
					腹腔鏡下
胃					1
胃癌		192		悪性リンパ腫	2
Staging laparoscopy		29		その他	0
切除				その他	3
全摘	開腹	11			
	腹腔鏡下	10			
残胃全摘	開腹	2		食道	
	腹腔鏡下	3		良性腫瘍	1
噴門側切除	開腹	1		非上皮性腫瘍	0
	腹腔鏡下	12		食道癌	39
幽門側切除	開腹	12		右開胸 (腹腔鏡併用0)	8
	腹腔鏡下	75		胸腔鏡下 (腹腔鏡併用0)	27
PPG	開腹	0		腹腔鏡下 (胸腔内操作あり)	0
	腹腔鏡下	3		開腹	0
SSD・部分切除	開腹	0		胸腔鏡併用咽喉食道全摘	1
	腹腔鏡下	0		遊離空腸移植	1
非切除				食道抜去	0
単開腹		0		頸部リンパ節郭清	0
バイパス	開腹	0		腹部リンパ節郭清	0
	腹腔鏡下	5		食道切除後2次的再建術	0
その他		5		バイパス術 (試験開胸2)	2
再発				胃管癌	0
肝転移切除		0		胃管全切除 (胸骨縦切開)	0
卵巣転移切除		0		胃管部分切除	0
リンパ節郭清		0		食道穿孔 (胸腔鏡下ドレナージ)	1
局所切除		0			
腸切除		0		肝胆膵	67
バイパス		0		肝腫瘍	
人工肛門造設		2		肝細胞癌	5
その他		0		肝内胆管癌	2
イレウス				転移性肝癌	8
癒着剥離		3		その他肝腫瘍	0
腸切除		1		胆道癌	
バイパス		0		十二指腸乳頭部癌	2
人工肛門造設		0		胆嚢癌	4
胃瘻・空腸瘻		0		胆管癌	5
腹壁癒痕ヘルニア				膵疾患	
修復術	開腹	1		膵臓癌	13
	腹腔鏡下	1		IPMA・MCN	7
				内分泌腫瘍	1

その他悪性腫瘍		人工肛門造設術	3
十二指腸癌	0	低位前方切除術	1
GIST	0	結腸良性	0
小腸癌	0	(腹腔鏡下手術)	0)
NHL	0	直腸悪性	81
その他悪性	6	(腹腔鏡下手術)	70)
その他		低位前方切除術	28
胆石症・胆嚢ポリープ	11	超低位前方切除術	16
肝内結石症	0	前方切除術	16
汎発性腹膜炎	0	直腸切断術	9
ヘルニア	0	ハルトマン手術	5
腹腔内膿瘍	0	経肛門的切除術	4
腸閉塞	0	人工肛門造設術	2
閉塞性黄疸	0	骨盤内臓全摘術	1
その他良性	3	直腸良性	0
術後合併症	0	(腹腔鏡下手術)	0)
術式		再発・転移	26
肝葉切除+臍頭十二指腸切除	0		(重複あり)
臍全摘	0	肝切除術	17
臍中央切除	1	腹膜播種腫瘍切除術	2
臍頭十二指腸切除	16	卵巣摘出術	2
臍体尾部切除	13	低位前方切除術	1
腹腔鏡下臍体尾部切除	0	大網切除術	1
肝切除	11	骨盤再発腫瘍切除+小腸切除術	1
肝門部胆管癌手術	1	頸部リンパ節摘出術	1
胆嚢癌根治術	4	試験開腹術	1
胆管癌手術	0	粘液除去術	1
小腸悪性腫瘍手術	0	肝転移	17
腹腔鏡下胆嚢摘除	8		(上記原発再発症例に含まれる)
ラジオ波焼灼	1	異時	7
腹腔鏡下肝切除	2		(上記再発症例に含まれる)
その他悪性腫瘍手術	0	同時	10
開腹胆摘	8		(上記原発症例に含まれる)
総胆管切石	0	その他の手術	74
胆道再建	1		(内緊急手術 16)
PTCD/PTAD	0	他科癌・他癌	14
その他	6	大腸切除術	6
		人工肛門造設術	5
		腹膜播種切除術	3
結腸, 直腸手術症例	全身麻酔手術	人工肛門閉鎖術	21
	その他の麻酔手術	C Vポート造設術	11
原発	195	C Vポート抜去術	6
結腸悪性	114	鼠径ヘルニア根治術	
(腹腔鏡下手術)	92)	(+小腸部分切除)	4(1)
右半結腸切除術	51	腹壁癒痕ヘルニア手術	4
S状結腸切除術	30	小腸部分切除術 (腹腔鏡)	4(1)
下行結腸S状結腸切除術	8	虫垂切除術 (腹腔鏡)	3(3)
横行結腸切除術	6	洗浄ドレナージ	
横行結腸下行結腸切除術	5	(+人工肛門造設術)	2(1)
左半結腸切除術	5	腸管膀胱瘻手術 (腹腔鏡)	2(2)
回盲部切除術	5		

腸閉塞手術（腸切除なし）	2
腸閉塞手術（腸切除あり）	1
人工肛門造設術	1
腋窩リンパ節生検	1
直腸脱手術	1
止血・血腫除去術	1

2020年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道：41件（10件増加）、胃：192件（49件減少）、結腸・直腸：271件（29件減少）、肝胆膵：67件（41件減少）であった。鏡視下手術件数（割合）は、食道切除：28件（78%）、胃切除：113件（81%）、結腸・直腸切除：162件（83%）、膵体尾部切除：0件、肝切除：2件（18%）であった。本年は新型コロナウイルス感染の蔓延による受診控えが影響し、新規患者の減少が全国的な傾向として認められる。目下ワクチン接種が進められており、がん検診受診率の回復による患者増加に備え、一層の技術向上が望まれる。一方で癌専門施設における消化器癌に対するロボット支援下手術数が着実に増加しており、当院の手術ロボット導入は待った無しの状況である。（文責 消化器外科 會澤雅樹）

2. 乳腺外科

外来手術	0例
入院手術	
良性+プローベ	6例
乳癌	309例
Auchincloss	67例
Mastectomy + SLNB	122例
Simple mastectomy	11例
Lumpectomy + Ax	9例
Lumpectomy + SLNB	60例
Lumpectomy	40例
その他	
局所再発（リンパ節、創）	11例
乳房内再発 乳房切除	13例
乳房内再発 乳房部分切除	0例
後出血	0例
その他	5例
エキスパンダー挿入（上記手術に算定済み）	
1次2期再建	13例

2020年の原発性乳癌手術数は309件で、昨年より24件の減少であった。温存療法は約35.2%に施行されていた。

コロナ禍の1年であったが手術数の大きな減少はみられなかった。（集計・文責 神林智寿子）

3. 呼吸器外科

() 胸腔鏡手術

1. 気管（支）疾患	1
2. 肺疾患	262(239)
2-1 良性肺疾患	16(16)
炎症性腫瘍	9(9)
真菌症	1(1)
過誤腫	0(0)
肺動静脈瘤	0(0)
その他	6(6)
2-2 悪性腫瘍	246(223)
2-2-1 原発性肺癌	220(198)
全摘除	0(0)
肺葉切除	167(150)
区域切除	33(32)
部分切除	14(13)
試験	6(3)
その他	0(0)
2-2-2 転移性肺腫瘍	26(25)
大腸癌	15(15)
泌尿器生殖器腫瘍	4(4)
他消化器がん	2(2)
肺癌	0(0)
骨軟部腫瘍	3(3)
乳癌	1(1)
悪性黒色腫	1(1)
2-2-3 その他の悪性肺疾患	0(0)
3. 縦隔疾患	6(3)
3-1 縦隔腫瘍	3(1)
胸腺腫	2(1)
原発不明縦隔リンパ節癌	0(0)
縦隔リンパ節 他	0(0)
3-2 縦隔鏡検査	1(1)
4. 胸膜疾患	25(24)
気胸	0(0)
膿胸	0(0)
術後出血・膿胸	3(2)
術後肺ろう	19(19)
孤立性線維腫	1(1)
術後気管支断端瘻	2(2)
胸膜腫瘍（中皮腫）	0
肺膿瘍	0
その他	0
5. 胸壁疾患	2(2)
合計	296(268)

原発性肺癌を含む肺悪性腫瘍手術は246例で例年とほぼ同じです。切除できなかった試験開胸が6例

と多かったのが特徴です。

手術合併症での再手術が22例あり、2019年より多くなりました。これを限りなく少なくするように研鑽を積んでいきます。(文責 青木 正)

4. 骨軟部腫瘍・整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	138
生検	5
良性軟部腫瘍	計 143
良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	18
切除+人工関節	0
生検	15
良性骨腫瘍	計 33
悪性軟部腫瘍	
広範切除	13
広範切除+皮弁など再建	8
切断	0
生検	3
悪性軟部腫瘍	計 24
悪性骨腫瘍	
広範切除	1
広範切除+人工関節・自家骨移植	3
切断	0
生検	3
悪性骨腫瘍	計 7
転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0
転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	3
切断	0
広範切除+人工骨頭置換	2
切除・生検	3
転移性腫瘍	計 8
腫瘍性疾患	計 215

非腫瘍性疾患

外傷	
骨接合術	5
人工骨頭置換術 (股)	2

観血的脱臼整復	1
外傷	計 8

感染

デブリードマン	7
骨搔爬術 (骨髄炎手術)	1
感染	計 8

その他

血腫除去	1
人工膝関節再置換術	1
切断 (感染, 壊死)	1
偽関節手術	1
抜釘・異物除去	3
その他	計 7

非腫瘍性疾患	計 23
--------	------

総合計 238

手術件数は238件 (16件減少)であった。腫瘍性疾患は前年 (209件) とほぼ同等であった。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍は176件 (23件増加), 悪性腫瘍数は生検手術を除くと25件 (11件減少), 転移性腫瘍は8件 (2件減少)であった。2019年は悪性疾患が一時的に多い年で、難治例も多かったが、2020年は例年通りであった。また軟部組織再建を要する広範切除症例は8例であり、2019年頃から増加傾向がみられる。(文責 山岸哲郎)

5. 脳神経外科

総手術件数	19
1) 腫瘍摘出術	8
悪性腫瘍	6
良性腫瘍	2
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	2
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	2
4) その他	9
オンマイヤー設置	7
定位的生検術	1
全身麻酔下頭蓋骨腫瘍生検	1

本年の頭蓋内腫瘍摘出術は8例で、その内訳はグリオーマ5例, 転移性脳腫瘍1例, 良性硬膜外腫瘍1例であった。嚢胞性の転移性脳腫瘍には局所麻酔

下穿頭術によりオンマイヤーリザーバーの設置術を7例に行なっている。グリオーマの局所麻酔下の定位的生検術はCTナビゲーションシステムを用いて行った。また、転移性脳腫瘍のオンマイヤー設置術の3例でもCTナビゲーションシステムを用いた。

ちなみに、本年の転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療症例は45例であった。(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式単純子宮全摘出術 (+ 付属器摘出術など)	28
CIN3/HSIL	9
子宮筋腫	8
子宮頸癌	5
子宮内膜異型増殖症	4
その他	2
準広汎子宮全摘出術	5
子宮体癌	3
子宮頸癌	2
広汎子宮全摘術	15
子宮頸癌	13
子宮体癌	2
子宮体癌手術	60
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+骨盤リンパ節郭清:準広汎子宮全摘術以上は除く)	
付属器悪性腫瘍手術	67
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術+大網切除術+骨盤・傍大動脈リンパ節郭清)(卵管癌・腹膜癌・原発不明癌を含む)	
原発性卵巣癌	53
卵巣境界悪性腫瘍	9
腹膜癌	2
転移性卵巣癌	1
その他	2
子宮頸部円錐切除術	86
その他の悪性腫瘍手術	3
外陰・腔悪性腫瘍手術	3
付属器摘出術 (卵巣腫瘍核出術を含む)	19
腹腔鏡下手術	18
良性卵巣腫瘍	12
悪性腫瘍に対する審査腹腔鏡	4
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	2

経頸管摘除術 (TCR)	7
子宮内膜ポリープ	5
子宮筋腫	2
子宮内膜全面搔爬	4
子宮体癌疑い	3
子宮内膜異型増殖症	1
その他	16
CVポート抜去	6
その他	10
計	328

2020年の手術件数は328件であり、昨年(341件)より約4%減となった。主なところでは、腹腔鏡下手術は昨年より半減となったが、子宮体癌手術(30%増)および付属器悪性腫瘍手術(45%増)はいずれも件数が増加した。全体に占める悪性腫瘍手術の割合は2019年:33%から2020年:46%へ増加した。(文責 山口雅幸)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術 (小計2)	
副腎摘出術	1
副腎その他	1
腎腫瘍および腎の手術 (小計95)	
根治的腎摘出術	22
腹腔鏡下根治的腎摘出術	1
腎部分切除術	25
経皮的腎腫瘍生検	8
経皮的腎瘻造設術	38
腎その他	1
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術(小計122)	
腎尿管全摘出術	36
尿管カテーテル法 (留置を含む)	85
尿管摘出術	1
膀胱腫瘍および膀胱の手術 (小計346)	
膀胱全摘出術+回腸導管造設術	13
膀胱部分切除術	1
経尿道的膀胱腫瘍切除術	322
膀胱内血腫除去・止血術	7
膀胱瘻造設術	2
膀胱その他	1
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計3)	
経尿道的尿道腫瘍切除術	1
内尿道切開術	2
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計298)	

前立腺生検	288
前立腺全摘出術	8
経尿道的前立腺切除術	2
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計21)	
高位精巣摘出術	19
後腹膜リンパ節郭清	2
陰茎腫瘍および陰茎の手術 (小計1)	
包茎手術	1
後腹膜腫瘍および後腹膜の手術 (小計3)	
後腹膜腫瘍摘出術	1
後腹膜腫瘍生検	2
その他 (小計9)	
総計	900手技 (850件)

2020年の手術件数は850件(900手技)で、前年よりやや減少していた。内訳では、前立腺生検が例年よりやや少なく、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、検診や受診控えによる影響が考えられた。他の術式は、例年とほぼ同等であった。

(文責 小林和博)

8. 皮膚科

【悪性腫瘍】

悪性黒色腫	42
基底細胞癌	77
有棘細胞癌	55
ボーエン病	44
日光角化症	23
乳房外パジェット病	7
皮膚附属器癌	7
悪性リンパ腫	6
転移性皮膚癌	8
血管肉腫	0
メルケル細胞がん	1
隆起性皮膚線維肉腫	2
小計	272

【良性腫瘍・その他】

母斑細胞母斑	73
上記以外の母斑	43
表皮嚢腫 (粉瘤)	104
粘液嚢腫	1
脂漏性角化症	56
脂肪腫	57
皮膚線維腫	19
軟線維腫	3
良性皮膚付属器腫瘍	30
血管腫	24
血管拡張性肉芽腫	12

ケラトアカントーマ	6
石灰化上皮腫	26
慢性膿皮症	3
良性神経系腫瘍	4
疣贅	17
リンパ球腫	0
毛嚢炎	0
血管平滑筋腫	4
癬痕 ケロイド	1
リンパ節生検	9
その他	44

小計 536
合計 808

2020年はコロナ禍に伴う手術数制限、受診控えの影響もあり、手術件数は前年比で131件(悪性腫瘍52件、良性腫瘍その他79件)減少した。悪性腫瘍患者の巣ごもり傾向は看過できない問題であり、受診促進のための啓発活動に努めたい。

(文責 竹之内辰也)

9. 眼科

水晶体再建術：眼内レンズを挿入する場合	138件
水晶体再建術+緑内障手術	7件
濾過手術を含む緑内障手術	8件
腫瘍手術	6件
硝子体注射/注入	43件
その他	8件
合計	210件

3月までは昨年同様の手術件数であったが、新型コロナウイルスの蔓延による全国緊急事態宣言をうけ、日本眼科学会、病院内感染対策会議の提言を受け、不急の手術の中止、延期により手術件数は大幅に減少した。

相変わらず1名による手術体制であったが、手術の種類が多岐であり、難易度の高い症例も多く、他院から紹介される手術対象患者の比率も大きいためコロナの終息が待たれる。(文責 原 浩昭)

10. 頭頸部外科

舌・口腔

舌・口腔良性腫瘍摘出術	1
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	12

小計 13

咽頭		大胸筋皮弁（有茎）	3
		前胸壁皮弁（有茎）	0
		局所皮弁	0
咽頭良性腫瘍摘出術	0		
咽頭悪性腫瘍摘出術（外切開）	1		
下咽頭・喉頭全摘術	1	小計	7
斜視鏡下咽頭悪性腫瘍手術	8		
嚥下改善手術（原発巣との併術含む）	2	末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）	23
	小計	12	
喉頭・気管		その他（リンパ節生検，気管孔閉鎖など）	32
			合計 265
気管切開術	15		
人工シャント発声手術 （プロボックス®留置）	2		
喉頭全摘術	5		
喉頭亜全摘術（CHEP）	1		
喉頭垂直部分切除術	0		
斜視鏡下喉頭悪性腫瘍手術	2		
	小計	25	
頸部			
頸部廓清術 （原発巣との併術含む，片側を1とカウント）	37		
	小計	37	
甲状腺			
甲状腺良性腫瘍摘出術	59		
バセドウ病手術	0		
甲状腺悪性腫瘍摘出術	47		
	小計	106	
耳下腺			
耳下腺良性腫瘍摘出術	6		
耳下腺悪性腫瘍摘出術	2		
	小計	8	
鼻・副鼻腔			
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	2		
	小計	2	
再建手術			
腹直筋（遊離）	1		
前外側大腿皮弁（遊離）	1		
前腕皮弁（遊離）	1		
空腸（遊離）	1		
		悪性腫瘍およびそれに関連する再建	58
		乳房再建用エキスパンダー挿入 （一次13症例，二次2症例）	15
		乳房インプラント挿入 （一次二期14症例，二次二期1症例）	15
		乳輪乳頭作成	2
		有茎皮弁	9
		遊離皮弁	7
		植皮	4
		腫瘍切除	6
		瘢痕，瘢痕拘縮，ケロイド	6
		瘢痕拘縮形成術	6
		その他	7
		神経縫合・移植	2
		その他	5
		計	71

2020年度の手術件数は265件であった（2020年度よりカウント数方法を変更）。再建（遊離あるいは有茎）を要する拡大手術は7件だった。斜視鏡併用下経口的手術は，2020年度は10件であった。適応は，原則早期癌で根治切除の見込み例とし，放射線治療後の新規症例や以前であれば放射線治療を行っていた症例に対しても行っている。さらに放射線治療が適切でない高齢者にも適応を拡大している。また，進行癌に対して切除困難が見込まれた症例に対し，導入化学療法後による根治術で喉頭・嚥下の形態と機能温存が可能な症例も増えてきている。

（文責 富樫孝文）

11. 形成外科

他科との手術は30症例，手術の4割強となり，乳腺外科，頭頸部外科，整形外科と手術させていただいています。乳房再建関連手術は38症例でした。自家組織による乳房再建数に大きな変化はありません。しかし，乳房インプラントによる再建については，2019年7月下旬からの人工物（乳房再建用エキスパンダーならびに乳房インプラント）の一時使用中止による影響がまだ残っております。人工物によ

る乳房再建は2020年に入ってから再開しておりますが，covid-19による手術自粛もあり，当科手術数全体としても，前年と比較し減少しております。手術数にとらわれることなく，引き続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み，ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。（文責 坂村律生）